

千葉県防災支援ネットワーク検討会議（第1回）

1. 千葉県防災支援ネットワーク検討会議（第1回）の概要

日 時 平成25年1月7日（月）午後2時00分から午後3時25分まで
場 所 千葉県庁南庁舎9階第3会議室
出席者 千葉県防災支援ネットワーク検討会議構成員
千葉県防災危機管理部長
千葉県防災支援ネットワーク検討ワーキンググループメンバー

2. 議事概要

「防災支援ネットワーク基本構想」について、事務局からの説明後、各構成員から意見等をいただいた。

主な意見等は次のとおり。

○：構成員 △：事務局

(1) 想定する部隊等の受入れ量について

- 防災支援ネットワークは、想定外を避けるため、自衛隊、消防、警察及び海上保安庁などの既存の広域応援協定や支援計画に1.5倍又は2.0倍程度の係数を掛けた受入体制を考えていくというものか。
- △ 支援部隊であれば、入ってくる部隊の上限が決められているため、現行計画の1.5倍等の体制は念頭にない。
- 実際に計画以上の人数が動いた例もある。想定外をなくすためにも、ある程度、受入予定よりも余裕を持って考えてもらいたい。
- △ まずは、それぞれの要支援地域の被災量に充当できる量を各ゾーンの中で確保する。それから、ひとつの支援ゾーンで支援できない場合のゾーン間の融通性について検討する。

(2) 現地の調整機能について

- 支援部隊の活動拠点や物資の集積拠点を調整する機能を現地にも持たせるのか。
- △ 分散型の広域防災拠点となるため、ゾーンごとの調整機能の重要性は認識しているので、今後併せて検討していきたいと思っている。
- 複数の支援機関が集まるのであれば、支援部隊の調整会議があつて、県内自治体の代表者が入って話をまとめていく必要がある。

(3) 災害対策本部との連絡体制について

- 緊急消防援助隊は指揮支援隊が派遣先の都道府県の災害対策本部に入るが、それぞれの支援ゾーンに災害対策本部からの指令が的確に流れるような支部のようなものを作る想定があるのか。
- △ 長期間活動するのに、資機材の整備や隊員の休養を行う後方支援的なものが必要であるか、防災支援ネットワーク検討ワーキンググループに投げかけている。必要であれば、そこにて連絡を取るようなことはイメージしている。そのための通信機能も考えなければならないと思っている。

(4) 今後の整備の方向性について

- 広域防災拠点となる施設の整備の方向性については、建屋、給食施設、上下水道及び資機材の備蓄等、どのくらいまでを意識しているのか。
- △ 当面はいつ災害が発生しても対応できるような体制をとるため、今ある施設の指定を行う。通信機能、給水槽及び車両の進入路等のそれぞれの機能を発揮するために必要なものについては議論していく。
- 「この建物は災害時には支援活動に使いますので、一般の方の立入りをお断りすることがあります。」というようなものを、数ヶ月のうちにやるということか。
- △ 施設の管理者との調整を行い、秋頃までに固めていきたいと思う。

(5) 物流倉庫の協力について

- 民間企業として空きスペースをなくすということで仕事をしている中で、災害が起きた時にどこまで協力することができるか不安な部分はある。
- △ どこが被災するのかによっても使える倉庫等は変わってくると思うので、状況に応じた形で活動できるよう、関係機関と協議していきたい。

(6) 活動拠点について

- 東日本大震災の時には、支援部隊自ら活動拠点の調整や交渉を行っていたため、あらかじめ活動拠点が決まっているというのはありがたい。